

岡山県民文化祭 岡山県俳人協会・俳人協会岡山県支部

第四十三回俳句大会成績

日時 令和四年十月十六日(日)

場所 岡山国際交流センター

応募句

・おかやま県民文化祭賞

大袈裟に泣いて喝采村芝居

高村 薫青

・岡山県知事賞

牛飼ひを牛が呼ぶ声秋夕焼

国方 一航

・岡山市芸術祭実行委員長賞

七曜を気にせぬ暮し心天

大塚 功子

・岡山市長賞

母送る花野まるごと供華として

岸 しのぶ

・山陽新聞社賞

生みたての卵ざらつく春隣

佐藤 史男

・R S K 山陽放送賞

一本の釘を足場に燕の巣

原田 慶子

・N H K 岡山放送局長賞

蛍の闇より濡れて戻りけり

竹本 孝

・新人奨励賞

木蓮を掃きつつ坂を下りけり

西江 友里

シクラメン貸出本のページ折れ

福田 悠暁

・秀逸賞

後ろから脱がせてもらふ汗のシャツ

大森 博子

墓洗ふ叔父は十九の学徒兵

曾根 薫風

極月や父の手くせに沿う砥石

斎藤 廸子

一村がすつぽり桃の花の中

佐藤 恭子

朝鴉や床屋の熱き蒸しタオル

角南 英二

郭公や戸口に記す炭焼日

高木 幸子

夭折の子に会ひにゆく午睡かな
でむしや秘境の駅の時刻表
大南風銜へ煙草が編む漁網
捨て切れぬ物に埋もれて更衣
竹皮を脱ぐ反抗期真つ只中

石村美智子
小林 克己
小倉貴久江
安井 和子
北根 久子

・優秀賞

失ひし乳房は神に春の夜
先生の夏帽飛んで子らが追ふ
傘寿てふ涼しき齡たまはりぬ
千枚田いま千枚の芒原
双眼に余る穂高の天の川
十二支に席なき猫と寝正月
大緑蔭コントラバスを据ゑにけり
梅筵母に及ばぬことばかり
一山を背負ふ古刹や新樹光
背表紙のはづれし辞典文化の日

田村千代子
目賀 紀子
難波 政子
山本 那美
土屋 徹三
植木 智子
密田真理子
菱川 瑞枝
高杉 浪子
平田千恵子

・選外（入賞重複）

ほほづきや母の遺品にわれの文
奴髭落さず帰る祭の子
無人駅また無人駅田水張る
無為の日も余命の一と日夕桜
高塀の中の作業場燕来る
惜敗の球児仰げり雲の峰
待合にひびく産声明易し
蜜柑咲く島へ一里の渡し船

原田 慶子
岸 しのぶ
岸 しのぶ
高村 蔦青
曾根 薫風
竹本 孝
佐藤 史男
角南 英二

当日句

・大会大賞

神前にでんと三俵今年米

安藤 加代

・烏城賞

一才の踏み出す一步小鳥くる

佐藤 史男

・支部長賞

塩壺の塩さらさらと十三夜

広畑美千代

・特別選者特選

蔦紅葉野猿注意の札を這ふ

小野 純子

神前にでんと三俵今年米

安藤 加代

吟行へ永遠の舟出や望の潮

左居 正恵

草原の律の風音水の音

岡本三恵子

長島に海といふ壁霧笛かな

清水佳壽美

新蕎麦や妻は十割われ二八

山県 章宏

婚の荷の底に地下足袋菊日和

大森 博子

一才の踏み出す一步小鳥くる

佐藤 史男

いち早く池畔の蔦のもみづれる

中尾かすみ

峰風に揺れ一村の稲の秋

二司 能林

指揮棒へひびきあふ音秋気澄む

眞木 雅子

塩壺の塩さらさらと十三夜

広畑美千代

湧き出づる大地の炎彼岸花

佐藤 淑子

・当日句入選

語りつつ善人となる花野かな

星島 朋代

フェリー来る色なき風の島を縫ひ

島村 博子

早稲の香や石の一つが村境

影山 薫

箒目に靴跡あまた菊日和

高倉 早苗

背丈ほど伸びてさみしき藤袴

佐藤 恭子

秋時雨瀬渡し舟が戻りけり

磯橋 瑛子

婚の荷の底に地下足袋菊日和

大森 博子

一言に返るふたこと秋深む

丸山 敏幸

きちきちのひと跳び山気深まりぬ

小倉貴久江

青年が小銭をさぐる赤い羽根

近常 倫子